

株式会社マネーパートナーズグループ

東京証券取引所：プライム市場

証券コード：8732

2023年3月期第1四半期

決算説明資料

2022年8月3日

I. 連結決算の概況

II. 当社の経営目標及び株主還元について

III. プライム市場の選択及び計画書取組進捗について

IV. 営業ハイライト

IV-a 2023年3月期 Q1のマネパ

IV-b 2023年3月期 Q2からのマネパ

V. 参考資料



本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2022年8月3日現在において利用可能な情報に基づきなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

I. 連結決算の概況

総口座数

350,630 口座

(前四半期末比 **2,639**口座 増▲)

取引高

4,114 億通貨単位

(前四半期比 **41.4%** 増▲)

営業収益

1,390 百万円

(前四半期比 **3.7%** 増▲)

経常利益

304 百万円

(前四半期比 **45.0%** 増▲)



四半期連結業績推移

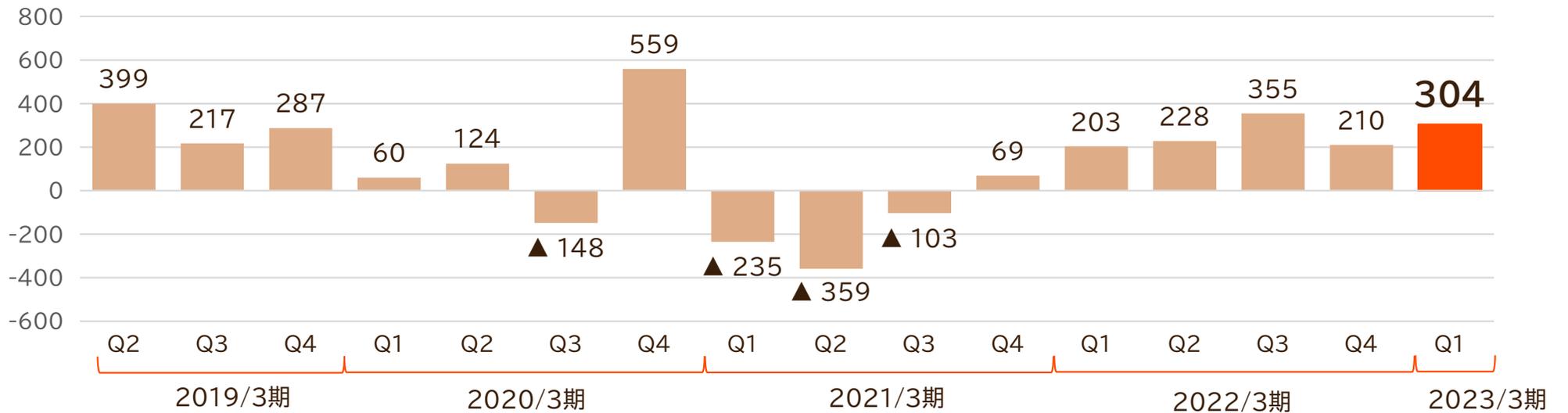
営業収益

(単位:百万円)



経常利益

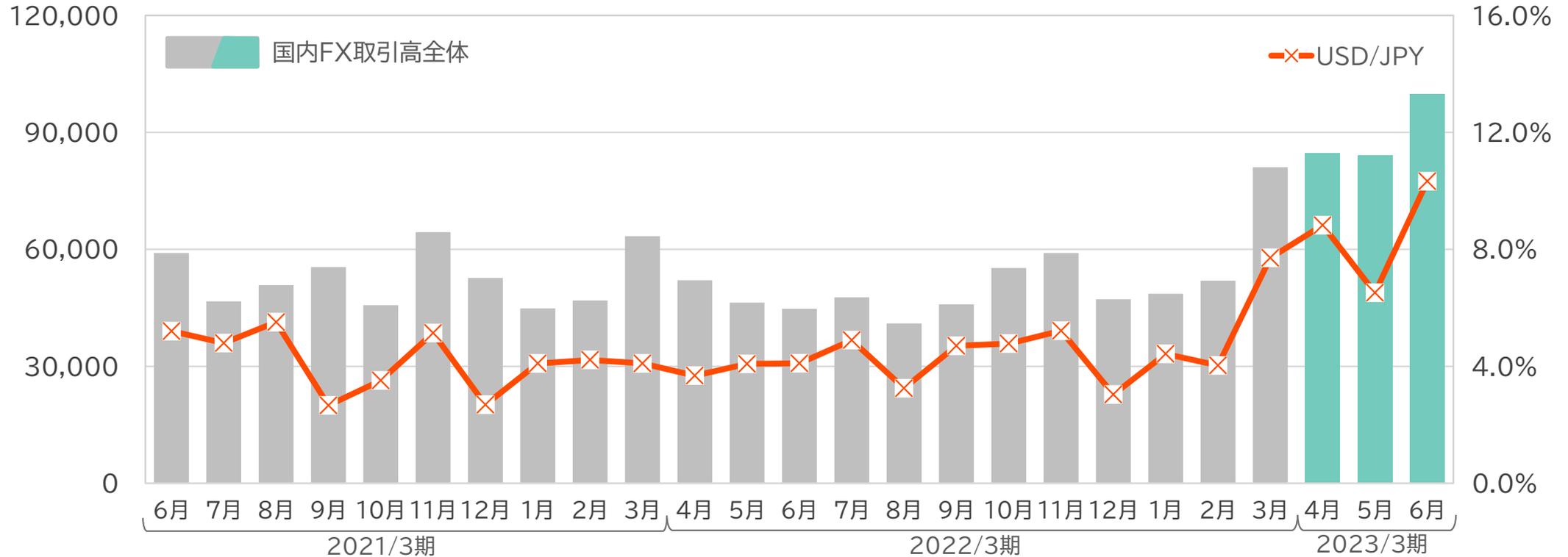
(単位:百万円)



外国為替市場の動向

◇ 国内の店頭FX取引業者計49社による外国為替取引高合計及び米ドル／円のボラティリティ推移

(億通貨単位)



今四半期の外国為替相場の変動率は、継続してウクライナ情勢の影響を受けつつ、米国の利上げ等によって、期を通して非常に高い水準になりました。それに伴い、国内FX全体の取引高も増加しています。

※ 国内の店頭FX取引業者計49社による外国為替取引高合計は金融先物取引業協会の発表する店頭FX月次速報をもとに記載しています。
米ドル／円のボラティリティは、日々のボラティリティを月間平均した数値を使用しております。



2023年3月期 第1四半期(2022年4月～6月) 連結決算概況と影響ファクター

- 前四半期比決算概況 <2023年3月期 第1四半期(2022年4月～6月)と 2022年3月期 第4四半期(2022年1月～3月)の比較>

	2021/3期				2022/3期				2023/3期	
	Q1 (4月～6月)	Q2 (7月～9月)	Q3 (10月～12月)	Q4 (1月～3月)	Q1 (4月～6月)	Q2 (7月～9月)	Q3 (10月～12月)	Q4 (1月～3月)	Q1 (4月～6月)	前四半期 対比増減
外国為替取引高 (億通貨単位)	2,818	2,436	2,066	2,357	2,281	2,476	2,519	2,910	4,114	▲ +41.4%
営業収益(百万円)	1,030	902	1,123	1,457	1,278	1,253	1,449	1,341	1,390	▲ +3.7%
経常利益(百万円)	▲235	▲359	▲103	69	203	228	355	210	304	▲ +45.0%

※外国為替取引高にはまいにち金・銀(CFD-Metals(差金決済取引))、まいにち暗号資産(暗号資産CFD(差金決済取引))の取引高(原取引単位を米ドルに換算)を含めて表示しております。

損益影響ファクター

外国為替取引高
前四半期比 増加 ↑

- ◇ ウクライナ情勢や米国の利上げ等を背景とする高水準のボラティリティ
- ◇ FX業界初5通貨ペアでスプレッド0.0銭を提示等の積極的なスプレッド縮小施策実施

営業収益
前四半期比 増加 ↑

- ◇ FX業界初5通貨ペアでスプレッド0.0銭を提示等のスプレッド縮小施策等による外国為替取引高の増加など

営業費用
前四半期比 減少 ↓

- ◇ 外国為替取引高の増加に連動する取引関係費を中心に若干増加したものの、前四半期が信用保証状更新の費用計上があったことの反動減によって減少



四半期連結業績推移

(単位:百万円)

	2021/3期				2022/3期				2023/3期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	
	(4月~6月)	(7月~9月)	(10月~12月)	(1月~3月)	(4月~6月)	(7月~9月)	(10月~12月)	(1月~3月)	
営業収益	1,030	902	1,123	1,457	1,278	1,253	1,449	1,341	1,390
受入手数料	7	9	8	10	9	11	9	8	8
トレーディング損益	995	851	1,045	1,362	1,211	1,193	1,397	1,258	1,344
金融収益	2	1	0	1	1	1	1	0	2
その他の売上高	23	41	68	83	56	47	40	74	36
金融費用	43	41	42	79	26	25	23	69	25
売上原価	10	25	39	47	42	32	25	48	25
純営業収益	976	835	1,042	1,330	1,210	1,195	1,400	1,224	1,338
販売費・一般管理費	1,212	1,181	1,143	1,256	1,006	997	1,053	1,016	1,031
営業利益	▲235	▲346	▲101	73	203	197	347	207	306
経常利益	▲235	▲359	▲103	69	203	228	355	210	304
特別利益	0	0	—	▲0	24	2	4	—	—
特別損失	—	—	189	573	—	1	1	8	—
税金等調整前四半期純利益	▲235	▲359	▲292	▲504	227	229	357	202	304
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲223	▲332	▲292	▲202	167	199	234	134	210



四半期連結販管費推移(販管費内訳及び主要費目の推移)

主な増減要因 < 2023年3月期 第1四半期(2022年4月~6月)と
2022年3月期 第4四半期(2022年1月~3月)の比較 >

取引関係費 (増加) : 外国為替取引高の増加に伴う支払手数料の増加

事務費 (増加) : 定時株主総会関係費用の計上により増加

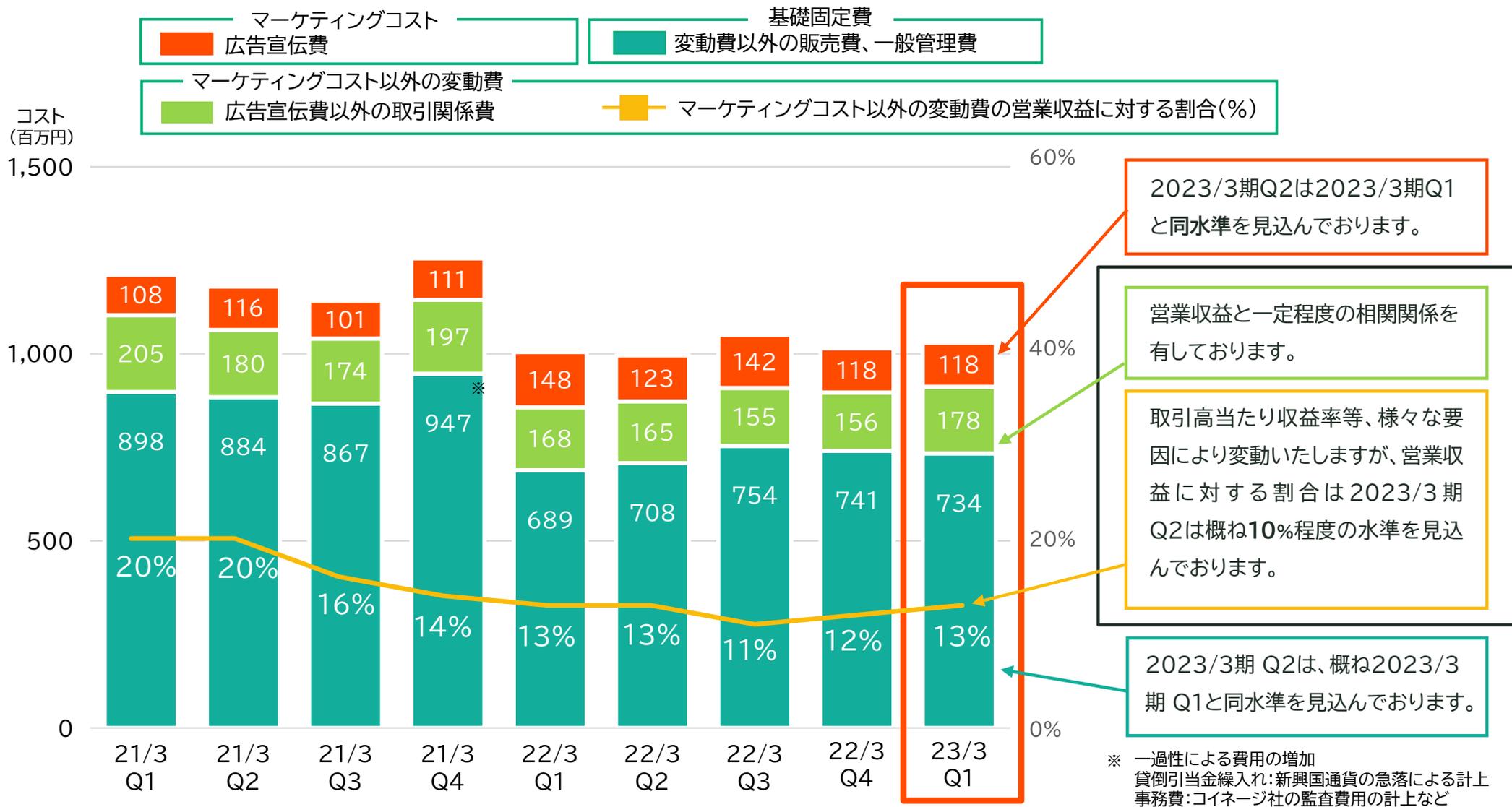
(単位:百万円)

	2021/3期				2022/3期				2023/3期	前第4四半期対比増減	
	Q1 (4月~6月)	Q2 (7月~9月)	Q3 (10月~12月)	Q4 (1月~3月)	Q1 (4月~6月)	Q2 (7月~9月)	Q3 (10月~12月)	Q4 (1月~3月)	Q1 (4月~6月)	増減額	増減率
取引関係費	313	297	276	309	317	289	298	274	297	+22	+8.3%
人件費	291	285	273	267	207	200	216	214	193	▲21	▲9.9%
不動産関係費※	168	163	156	166	142	132	145	154	149	▲5	▲3.4%
事務費	224	229	222	248	191	209	228	209	226	+16	+7.9%
減価償却費	153	173	173	158	135	137	134	126	119	▲6	▲5.2%
租税公課	31	15	22	12	22	25	21	23	23	▲0	▲2.4%
貸倒引当金繰入れ	▲1	▲0	▲0	74	▲26	▲6	▲1	▲1	▲0	+0	▲24.0%
その他	30	17	18	19	17	8	9	13	23	+9	+68.9%
販売費・一般管理費計	1,212	1,181	1,143	1,256	1,006	997	1,053	1,016	1,031	+15	+1.5%
(主要な費目)											
広告宣伝費 (取引関係費に含まれる)	108	116	101	111	148	123	142	118	118	+0	+0.7%

※不動産関係費には、不動産費の他、器具、備品費が含まれております。

四半期連結固定費、変動費推移と今後の動向

2023年3月期 第2四半期のマーケティングコストは、既存のお客様への商品訴求はもとより、**新規顧客獲得に注力、企業認知度向上**を図る施策を継続することから2023年3月期 第1四半期と同水準を見込んでおります。また、基礎固定費についても同様です。



2023/3期Q2は2023/3期Q1と同水準を見込んでおります。

営業収益と一定程度の相関関係を有しております。

取引高当たり収益率等、様々な要因により変動いたしますが、営業収益に対する割合は2023/3期Q2は概ね10%程度の水準を見込んでおります。

2023/3期 Q2は、概ね2023/3期 Q1と同水準を見込んでおります。

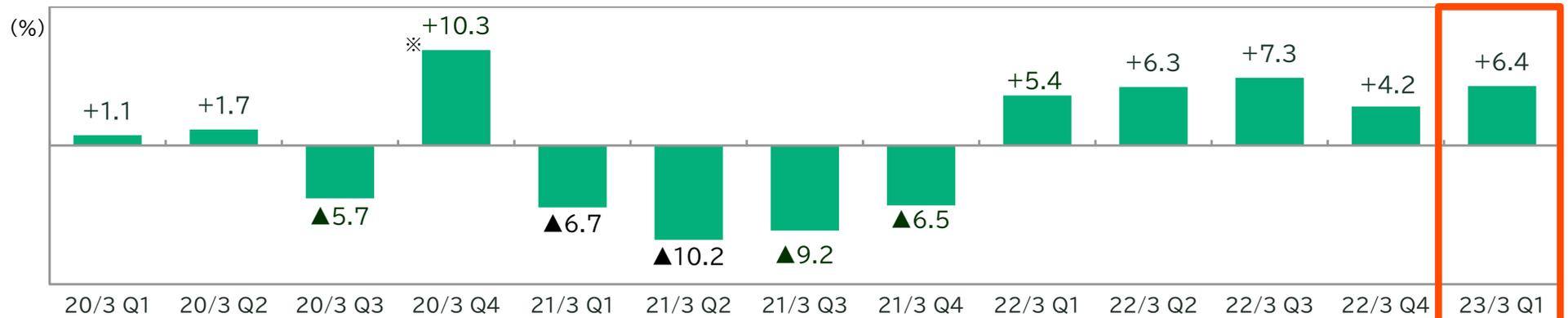
II. 当社の経営目標 及び株主還元について



当社の経営目標: ROE及び営業収益経常利益率の向上

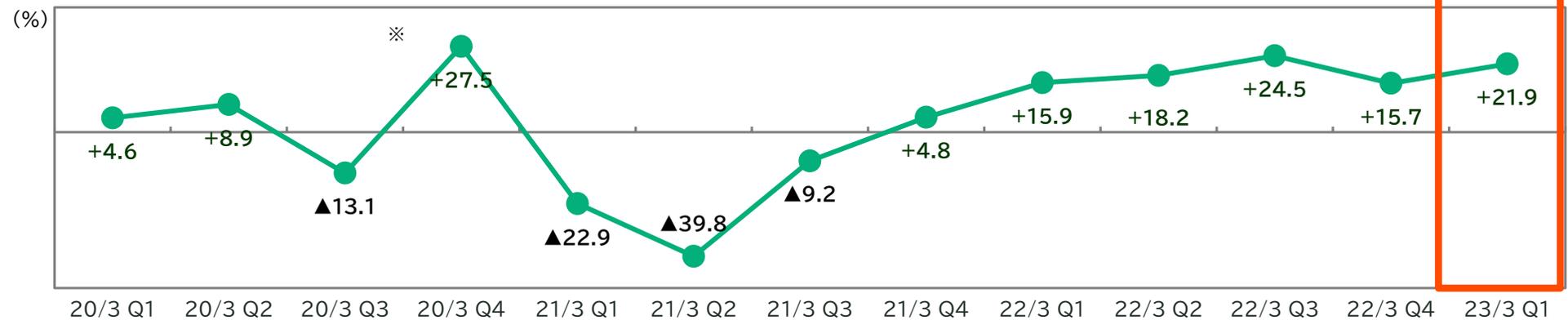
- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指して参ります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率(ROE)及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

自己資本利益率(ROE)



(注)四半期ROEは、下記計算式により年換算して算出しております。
 $ROE(年換算) = (親会社株主に帰属する四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$

営業収益経常利益率



※2020年3月期4Qについては、3月に新型コロナの影響を受け値幅が10円を超えるボラティルな展開となりました。その影響で営業収益は2010年5月以来の10億円超えとなったため、一過性な収益となっております。



配当方針

配当性向

親会社株主に帰属する当期純利益の

30% を目指す[※]

※配当は、配当性向の目指す30%としつつも財務状況及び事業環境等を総合的に勘案して決定

配当機会

中間及び期末（年2回）

		2022年3月期				2023年3月期			
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)		167	199	234	134	210	—	—	—
上段:3ヶ月 下段:累計		167	366	601	736	210	—	—	—
下段:累計									
配当金の総額(百万円)		122		122		未定		未定	
期末発行済		33,801,900		33,801,900		33,801,900		—	
株式総数(株)		(内、自己株式1,202,301)		(内、自己株式1,202,301)		(内、自己株式1,202,301)		—	
1株当たり 配当金	中間・期末	3.75円		3.75円		未定		未定	
	年間	7.5円				未定			

Ⅱ. プライム市場の選択 及び計画書取組進捗について

上場維持基準の適合状況 及び 基本方針

2022年4月に予定される市場区分の見直しに関して、2021年12月に**プライム市場を選択**する申請書を提出しました。

ただし、移行基準日時点（2021年6月30日）において、当該市場の上場維持基準への適合状況については、流通株式時価総額のみ基準を充たしていない旨の判定を受けております。

基準 / 市場	プライム市場	当社の数値
流通株式時価総額	100億円	54.4億円

(注) 2021年7月9日 付当社宛「新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一時判定結果について」より引用

上場維持基準を充たすために必要と想定される計画期間を、**2026年3月期末まで**としております。

そのため、以下の数値目標を設定し、各種取組を着実に実行してまいります。

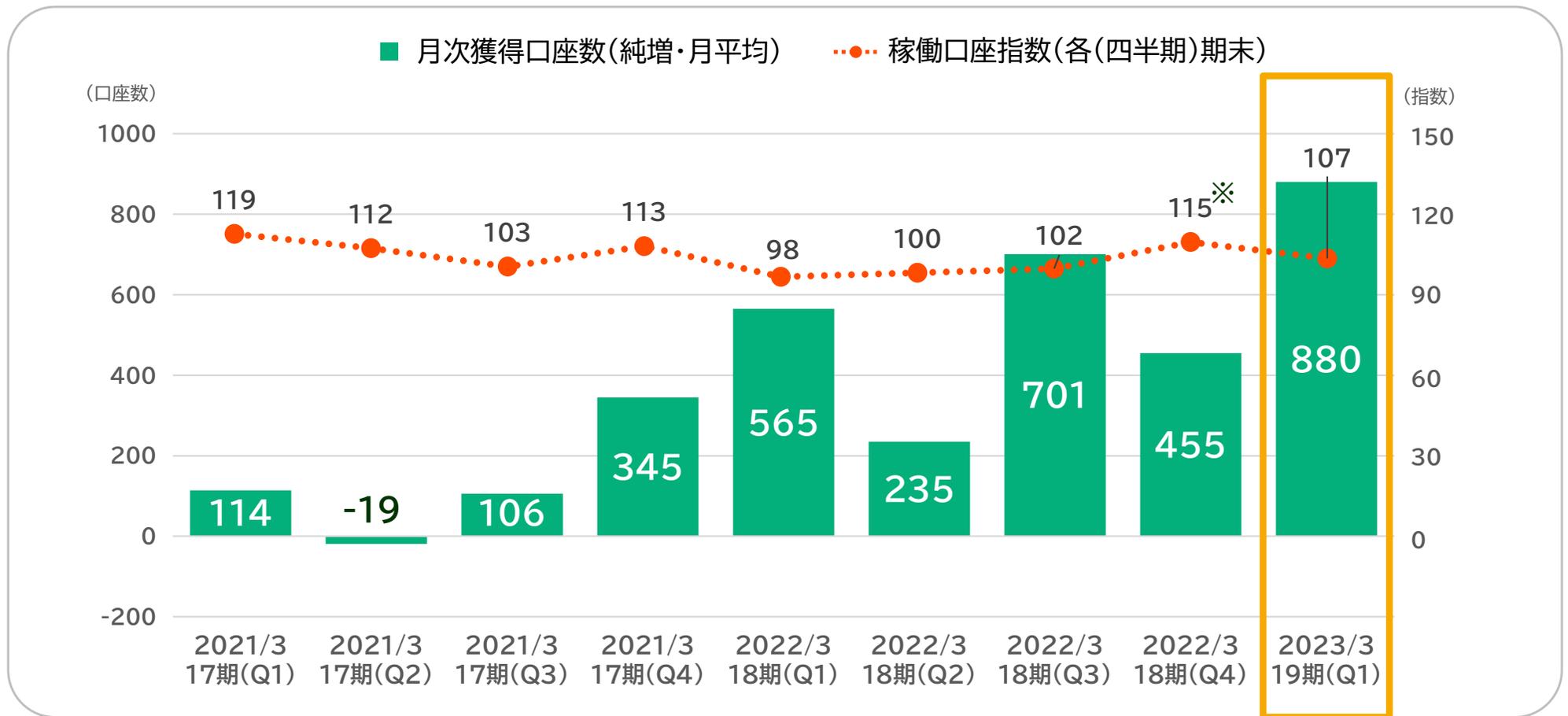
(ご参考)

数値目標 / 年度	2026年3月期	2023年3月期 (Q1累計実績)
ROE	8%以上	6.4%
営業収益経常利益率	20%	21.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,400百万円	210百万円
EPS	42.95円	6.59円
株 価	554円	
流通株式時価総額	11,720百万円	

■ 主な各種取組の進捗状況

達成目標 < 2026年3月期中 >

- ◇ 月次の新規獲得口座数 **2,000**件以上(月次獲得口座数(純増ベース))
- ◇ 稼働口座数の増加(2021年9月を100とした指数で**180**以上)



※ 2月後半からのロシアのウクライナ侵攻によりマーケットのボラティリティが大きく変動し、当社FXサービスが注目を浴びたため

■ ■ ■ 主な各種取組の進捗状況

- 既に達成した課題
- ▲ 進行中の課題

課題		取組	期日	進捗
業績の向上	●	暗号資産CFDにかかるサービス開始	2021年12月6日	サービス開始
		現状のBTC、ETH、LTC、BCH/円に加え、さらなる銘柄の追加通貨を検討	2023年3月期中	検討中
	▲	将来のコスト削減に向けたシステム投資(クラウド移行等)	2023年3月期以降を予定	進行中
	▲	スマホアプリのリニューアル	2022年3月期中	さらなるUI/UXの向上とリリース後の品質管理の高度化に取組中
コーポレートガバナンスの充実	●	投資家向け決算説明会等の充実	2022年3月期末以降、コロナ禍の状況を見つつ再開	2022年5月より再開
	●	英文開示資料の拡充	2022年6月より 定時株主総会狭義の招集通知を英訳	第18回定時株主総会招集通知の英訳を実施
	●	取締役会の諮問機関として「指名、報酬委員会」を設置	2022年3月期中	2022年2月15日設置
	▲	投資家に対する情報開示の充実、IRサイトのリニューアル	2022年3月期中	更なるセキュリティ機能の強化に取組中
	●	バーチャル併用(参加型)の株主総会の実施	2022年3月期にかかる 定時株主総会より実施予定	2022年6月開催の第18回定時株主総会にて実施

コーポレートガバナンス充実への取り組み

第18回定時株主総会にて独立社外取締役3名を新たに選任、2022年2月には指名報酬委員会を設置するなどコーポレートガバナンスの充実を図っています。

当社取締役一覧

氏名	役職名
福島秀治	代表取締役社長、指名報酬委員
佐藤直広	取締役 CCO 兼 法務コンプライアンス部長
白水克紀	取締役 CIO 兼 IT 管理部長
阿部東洋	社外取締役
<新任> 古河久人	独立社外取締役
<新任> 高井裕之	独立社外取締役
百瀬茂	監査等委員(常勤)、独立社外取締役、指名報酬委員
根本博史	監査等委員、独立社外取締役、指名報酬委員
川東憲治	監査等委員、独立社外取締役
<新任> 松本英昭	監査等委員、独立社外取締役

IV. 営業ハイライト



IV- a 2023年3月期 Q1のマネパ

パートナーズFX nano

- ◆ **FX業界初** の取り組みとして、4月から米ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円、ポンド/円、5月18日からはメキシコペソ/円を加えた**5通貨ペア**にてスプレッド**0.0銭**(売買同値)(当社所定の取引数量まで)を原則24時間提示
- ◆ 1回あたり**20万通貨**までのお取引において、**ゴールデンマネパタイム**(17:00~26:00 以下同じ。)の時間では、**計8通貨ペア**にて業界最狭水準スプレッドを提示するキャンペーンを実施。ゴールデンマネパタイムでは米ドル/円スプレッド**0.1銭**、豪ドル/円スプレッド**0.2銭**等の業界最狭水準のスプレッドを提示しております。

パートナーズFX

- ◆ **ゴールデンマネパタイム**にて、**計12通貨ペア**で業界最狭水準スプレッドを提示するスプレッド縮小キャンペーンを実施
- ◆ 米ドル/円、トルコリラ/円、メキシコペソ/円、南アランド/円で取引日数に応じてキャッシュバックを増額する**継続特典**を追加したキャッシュバックキャンペーンを実施

まいにち金・銀 (CFD-Metals)※

- ◆ **ゴールデンマネパタイム**において**金/米ドル、銀/米ドル**にて業界最狭水準スプレッド**0.2pips**を提示
- ◆ パートナーズFXと同様に、**金/米ドル、銀/米ドル**にて**継続特典**を追加したキャッシュバックキャンペーンを実施

※ 6月末よりCFD-Metals(商品CFD)を愛称として「まいにち金・銀」と呼称しております。

FX業界初『米ドル/円』、『ユーロ/円』、『豪ドル/円』、『ポンド/円』、
『メキシコペソ/円』の人気5通貨ペアにて**0.0銭**(売買同値)を原則24時間 提示

パートナーズFXnanoでは、**FX業界初**の試みとして米ドル/円をはじめとするユーロ/円、豪ドル/円、ポンド/円、メキシコペソ/円の**5通貨ペア**にて原則**24時間 0.0銭**(売買同値)を提示するキャンペーンを実施しております。米ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は1回あたりのお取引数量1万通貨まで、ポンド/円は5,000通貨まで、メキシコペソ/円は3万通貨までが本キャンペーンの対象となっております。

nano スプレッド縮小キャンペーン 5月16日~7月29日

※メンテナンス時間除く

人気5通貨ペア24時間
業界最狭スプレッド

0.0 銭

原則固定 (例外あり)

- 米ドル/円 (1万通貨まで)
- ユーロ/円 (1万通貨まで)
- 豪ドル/円 (1万通貨まで)
- ポンド/円 (5,000通貨まで)
- メキシコペソ/円 (3万通貨まで)

※記載の数量を超えるご注文は適用時間・スプレッドが異なります



IV- b 2023年3月期 Q2からのマネパ

パートナーズFX nano

- ◆ **FX業界初** 米ドル／円、ユーロ／円、豪ドル／円、ポンド／円、メキシコペソ／円の人気 **5通貨ペア**にて
当社所定の注文数量まで**0.0銭** (売買同値)の原則**24時間**提示を継続中
- ◆ 1回当たりの取引数量**20万通貨**までのお取引において**ゴールデンマネパタイム**(17:00~26:00 以下同じ。)の
時間にて米ドル／円スプレッド**0.1銭**を含めた主要**17通貨ペア**で業界最狭水準スプレッドを提示する
スプレッド縮小キャンペーンを実施中

パートナーズFX

- ◆ **ゴールデンマネパタイム**にて、米ドル／円スプレッド**0.2銭**を含めた主要**18通貨ペア**で業界最狭水準スプレッド
を提示するスプレッド縮小キャンペーンを実施中
- ◆ 米ドル／円、トルコリラ／円、メキシコペソ／円、南アランド／円で取引日数に応じてキャッシュバックを増額する継続
特典を追加したキャッシュバックキャンペーンを実施
- ◆ 6月18日よりお客様ご自身でロスカット率を変更できる機能を追加

まいにち金・銀 (CFD-Metals)※

- ◆ **ゴールデンマネパタイム**にて**金／米ドル、銀／米ドル**の業界最狭水準スプレッド**0.2pips**を提示中
- ◆ パートナーズFXと同様に、**金／米ドル、銀／米ドル**にて継続特典を追加したキャッシュバックキャンペーンを実施中

※ 6月末よりCFD-Metals(商品CFD)を愛称として「まいにち金・銀」と呼称しております。



ゴールドマネパタイム(17:00~26:00)の時間にて パートナーズFX nano・パートナーズFX・まいにち金・銀(CFD-Metals)にて 業界最狭水準スプレッドを提示するスプレッド縮小キャンペーンを実施

2022年3月10日より流動性が高く取引量の多い17:00~26:00の間を**ゴールドマネパタイム**とし、
パートナーズFXnanoでは計8通貨ペア、パートナーズFXでは計12通貨ペア、まいにち金・銀(CFD-Metals)では
計2銘柄にて業界最狭水準スプレッドを提示するスプレッド縮小キャンペーンを実施。

本キャンペーンは第2四半期も継続しており、7月18日からはスプレッド縮小の対象となる通貨ペアを大幅に拡充
し、**パートナーズFX nano**、**パートナーズFX**の両方にて**計17通貨ペア**、さらに**パートナーズFX**では
7月19日からは米ドル/円スプレッド**0.2銭**を追加し**計18通貨ペア**を対象とした**業界最狭水準スプレッド**
を提示するスプレッド縮小キャンペーンを継続中です。

nano 17:00~26:00は業界最狭水準スプレッド

MINKABU 2022 スプレッド部門 第1位

ご愛顧に感謝を込めて
ゴールドマネパタイム

全17通貨ペアで
実施中!!

7月18日~7月29日 原則設定(例外あり)

ポンド/円	ユーロ/円	ユーロ/米ドル	ポンド/米ドル
0.4 銭	0.2 銭	0.2 pips	0.5 pips
メキシコペソ/円	南アランド/円	豪ドル/米ドル	NZドル/円
0.1 銭	0.2 銭	0.3 pips	0.6 銭
米ドル/円	豪ドル/円	ポンド/豪ドル	ユーロ/豪ドル
0.1 銭	0.2 銭	1.2 pips	1.2 pips
米ドル/豪ドル	ユーロ/豪ドル	ユーロ/ポンド	豪ドル/NZドル
0.2 銭	0.3 銭	1.2 pips	1.2 pips

PFX 17:00~26:00は業界最狭水準スプレッド

MINKABU 2022 スプレッド部門 第1位

ご愛顧に感謝を込めて
ゴールドマネパタイム

全18通貨ペアで
実施中!!

7月18日~7月29日 原則設定(例外あり)

ポンド/円	ユーロ/円	ユーロ/米ドル	ポンド/米ドル
0.5 銭	0.3 銭	0.2 pips	0.6 pips
メキシコペソ/円	南アランド/円	豪ドル/米ドル	NZドル/円
0.1 銭	0.3 銭	0.3 pips	0.7 銭
米ドル/円	豪ドル/円	ポンド/豪ドル	ユーロ/豪ドル
0.2 銭	0.3 銭	1.2 pips	1.2 pips
米ドル/豪ドル	ユーロ/豪ドル	ユーロ/ポンド	豪ドル/NZドル
0.3 銭	0.3 銭	1.2 pips	1.2 pips

CFD 17:00~26:00は業界最狭水準スプレッド

ゴールドマネパタイム

4月19日~4月29日

8:10 17:00 26:00 5:30

金/米ドル	銀/米ドル
0.2 pips	0.2 pips

原則設定(例外あり)
17:00~26:00

V. 參考資料



社名	株式会社マネーパートナーズグループ
代表取締役社長	福島 秀治
設立日	2005年 6月10日
資本金	20億円
純資産(連結)	131億円 (2022年 6月末現在)
発行済株式総数	33,801,900株
連結子会社	株式会社マネーパートナーズ 株式会社マネーパートナーズソリューションズ

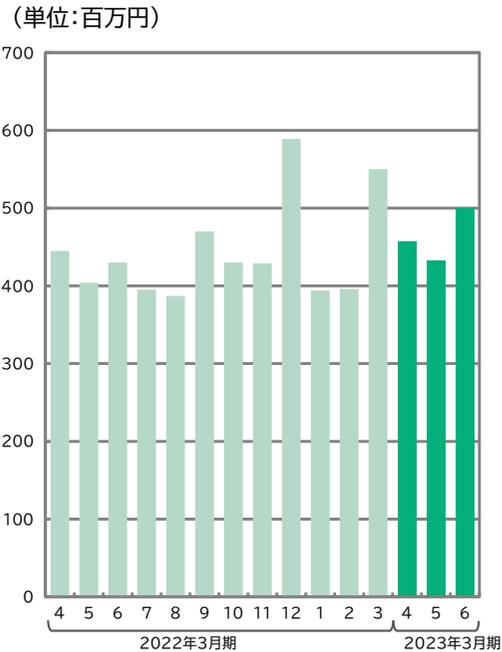
月次連結業績指標推移

■ 月次連結営業収益、外国為替取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

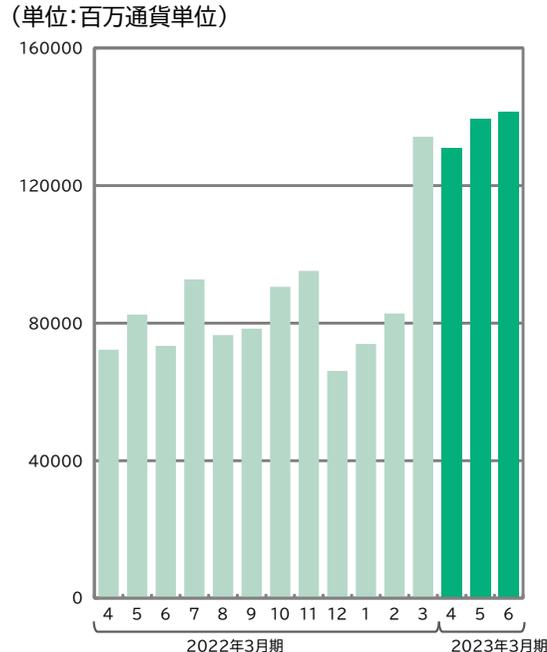
	2022年3月期												2023年3月期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
営業収益(百万円)	445	403	430	395	387	470	430	429	589	394	396	550	457	432	500
外国為替取引高 (百万通貨単位)	72,253	82,478	73,411	92,739	76,532	78,411	90,593	95,217	66,099	73,976	82,802	134,238	130,806	139,280	141,401
顧客口座数(口座)	342,801	343,397	343,817	344,134	344,134	344,522	344,755	345,482	346,625	347,287	347,437	347,991	348,893	349,810	350,630
顧客預り証拠金(百万円)	58,635	56,276	56,581	56,671	56,468	56,284	55,503	54,426	53,911	54,402	53,808	55,068	56,841	56,680	57,597

(注) 1. 「外国為替取引高」及び「顧客預り証拠金」には2011年8月より開始したCFD-Metals(差金決済取引)に関する数値を含めております。
 2. 2022年3月より、暗号資産CFD取引(差金決済取引)における預り証拠金及び取引高(売買代金を米ドルに換算)はそれぞれ「顧客預り証拠金」、「外国為替取引高」に含めて表示しております。

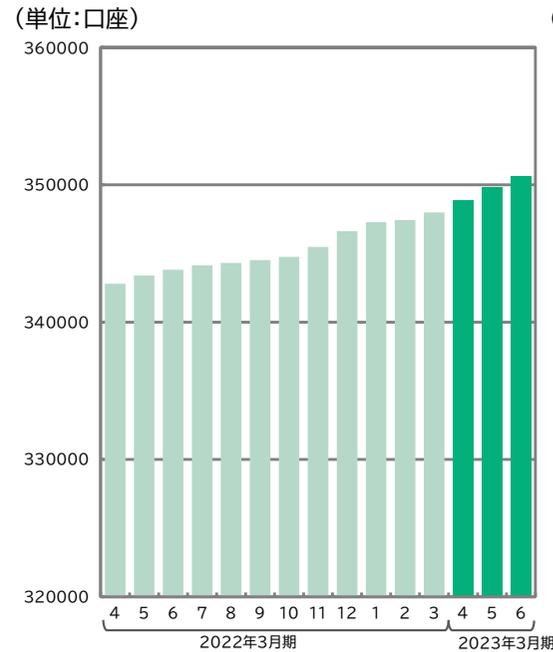
【営業収益】



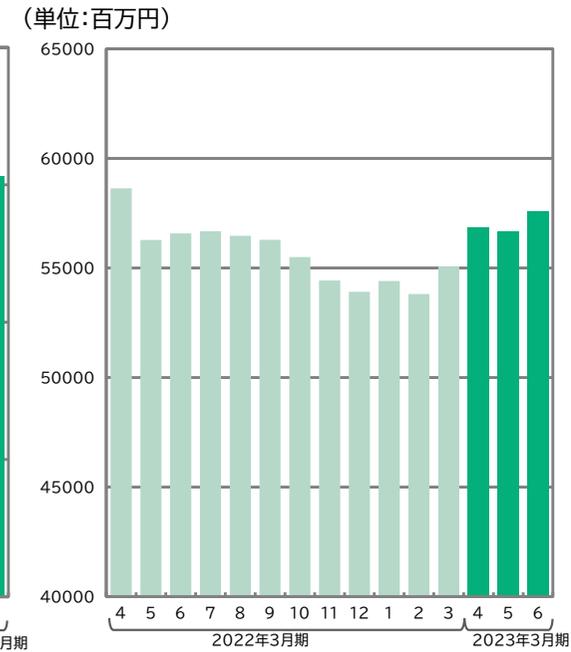
【外国為替取引高】



【顧客口座数】



【顧客預り証拠金】





FX取引(外国為替証拠金取引)、商品CFD取引、証券取引、および暗号資産CFD取引(暗号資産関連店頭デリバティブ取引)に関するご注意

【パートナーズFXおよびパートナーズFXnano】

パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格には差額(スプレッド)があります。

パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの取引に必要な証拠金は、取引の額の4%以上の額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。法人コースの建玉必要証拠金金額は原則、一般社団法人金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの為替リスク想定比率を取引の額に乗じて得た額とします。為替リスク想定比率とは、金融商品取引業等に関する内閣府令第117条第31項第1号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。

取引手数料は無料です。なお、外貨両替については1通貨あたり0.20円、受渡取引については1通貨あたり0.10円の手数料をいただきます。

【CFD-Metals】

CFD-Metalsは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格には差額(スプレッド)があります。

CFD-Metalsの取引に必要な証拠金は、取引の額の5%以上の額で、証拠金の約20倍までの取引が可能です。

【証券】

国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.75%の手数料(消費税込み)、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,750円(消費税込み)をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務、経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

【暗号資産CFD】

暗号資産は法定通貨(本邦通貨又は外国通貨)ではなく、特定の者によりその価値を保証されているものではありません。暗号資産は、代価の弁済を受ける者の同意がある場合に限り代価の弁済に使用することができます。

暗号資産CFDは、取引時の価格の変動により、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格には差額(スプレッド)があります。

暗号資産CFDの取引に必要な証拠金は、取引の額の50%以上の額で、証拠金の約2倍までの取引が可能です。

取引にあたり、営業日をまたいで建玉を保有した場合にはレバレッジ手数料が発生します。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ(金融商品取引業者、商品先物取引業者)

〈金融商品取引業の登録番号〉関東財務局長(金商)第2028号

〈加入協会〉日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会 一般社団法人日本暗号資産取引業協会

株式会社マネーパートナーズグループ

東京証券取引所：プライム市場

証券コード：8732

2023年3月期第1四半期

決算説明資料

2022年8月3日